

図書館コーナー

～新着図書のご案内～

中央図書館42-2525

曼陀羅の人(上)・(下)巻

(陳 舜臣著・TBSブリタニカ)

中国三千年の歴史に通暁する陳氏が、日本が生んだ最大の宗教人、弘法大師(空海)の入唐から帰朝までの期間、いわゆる「入唐求法時代」の全貌に情熱を傾けて肉薄した作品。今年に弘法大師の入定千百五十年目に当り、大師が開創した真言宗の各本山で記念の行事が営まれる。

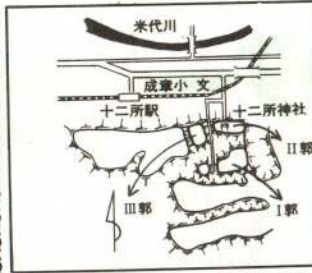
＜一般書＞

◆コンピュータの言語(ゲーリー・マーシャル著) ◆国破れて 去われた昭和史(村上兵衛著) ◆家族何が病んでいるのか(朝日新聞学芸部編) ◆子どもは伸びる(吉岡たすく著) ◆お父さんのための数学・100の常識(江藤邦彦著) ◆日本名湯名宿事典(たあぶる館出版編) ◆世界映画名作全史 現代編(猪俣勝人著) ◆最新 日米表現辞典(岩渕圭介著)

◆花月五百年(塚本邦雄著) ◆空二の世界(笠原淳著) ◆三毛猫ホームズのびっくり箱(赤川次郎著) ◆陽気なクラウン・オフィス・ロウ(庄野潤三著) ◆誰がロビンズ一家を殺した?(トマト・チャステイン他著) ◆名門(ディック・フランシス) ほか

＜児童書＞

まいごになった王さま(まつおやすこ著) ◆冬吉と熊のものがたり(安房直子著) ◆学研のこども図鑑(学習研究社刊) ◆ロミラのゆめ(金田卓也著) ◆しんかんせんでも、どんかんせんでも(かこさとし著) ほか



◆交通・国鉄十二所駅下車徒歩10分 ◎目標・十二所神社

十二所城跡

大館の歴史散歩

①

城編

十二所城跡は、眼下に米代川を見下ろす台地にある。台地には幾つもの小侵蝕谷が入り込んで複雑な地形を形作り、城郭は小侵蝕谷を空堀、小侵蝕谷によって孤立した高台を郭として築城し、郭、

空堀、帯郭、湧水(水の手)などの遺構がほぼ昔のまま残っている。

城はI郭(東西約百尺、南北五十尺)、II郭(同百尺、同三十尺)、III郭(同六十尺、同八十尺)と、その西に一つ、南に二つの広大な台部(屋敷回り)を主要部として構成され、郭上、台部上、空堀から土師器、須恵器、中世陶器、珠洲系陶器、染付、鉄滓などの遺物を採集できる。

『浅利與市侍分限』によると、十二所城は十二所信濃(鹿角郡扱人知行三千五百石)の居住で、のちに浅利、秋田、南部の抗争の中で幾度か城主をかえ、佐竹氏の秋田移



▲III郭南台地より

封後は、赤坂、塩谷が城代として入城した。十二所の地は鹿角郡(陸奥)と比内郡(出羽)を結ぶ交通路の要衝地にあり、軍事的、民治的な境口鎮台としての役目をもっていたと考えられる。慶長二年(一五九二)の「浅利頼平村数覚」には、「十二所村 田島家二十我等おとな三人の内七兵衛」とある。(大館市史編さん室)

市民の声

～噴水に電子音楽を～

桂城公園の噴水に電子音楽を開発され、噴水の形に合ったメロディーを公園内に流す事ができたら素晴らしいと思います。市の観光の一環ともなり、春・夏・秋の季節には市民のオアシスとなり、特に日曜、祭日には家族揃って噴水のメロディーを楽しみ、親子の対話から人の和も生まれ、明日への活力を生みだしてくれる意義ある公園になると思います。(片山・奈良正男)

＜お答えします＞

たいへんすばらしいアイデアだと思います。現在桂城公園にある噴水は、55年3月に完成したもので、これに電子音楽装置をつけるとすれば今の噴水を壊して造り直さなければなりませんので、相当費用がかかってしまいます。そこでこれから造る公園などにこのアイデアを生かすよう心掛けていきたいです。(都市開発課)

われらサークル仲間

No.1

木目込人形サークル

カルチュアセンター流行の昨今ですが、一昨年オープンした婦人会館でも多くの女性が趣味や教養にと活発に活動しています。その中の一つ「木目込人形講座」が、この四月から自主サークルになりました。



木目込人形は、桐の木の鋸屑で固められた人形を、紙ヤスリで丹念に磨いた後、衣裳を寒梅粉と呼ばれる糊で張り付けるもので、一体の製作日数はおよそ四日。鮮やかな色彩と人形の表情の豊かさが、大きな魅力といえます。完成された人形は、それぞれ家庭に持ち帰り居間などに飾られているようですが、婦人会館玄関脇の陳列ケースにも幾つか展示されています。

同会は会員十名足らずとサークルとしては小さい方ですが、それだけに指導されている川上アイさんを中心に和気あいあい、きめ細かな人形作りに取り組んでいます。例会は毎週金曜日の午前十時から、長い時は夕方四時ころまでつづけられることもあります。今後は人形作りに限らず、押絵などいろいろな分野に挑みたいと、会員は意欲的です。同会では初心者の方の参加者を募集中です。ご希望の方は婦人会館(☎49-17028)までご連絡ください。(代表 高杉和子さん)